

休眠預金活用事業 事業計画書（コロナ）

必須入力セル	任意入力セル
--------	--------

基本情報

申請団体		実行団体	
資金分配団体	事業名（主）	外国人と共に暮らし支え合う地域社会形成2	
	事業名（副）	支え合いを豊かさにつなげるまちづくり	
	団体名	認定特定非営利活動法人 日本都市計画家協会（JSURP）	
実行団体団体	事業名（主）	Sustainable Global Communityで仕事を作ろう！	
	事業名（副）	山村エリアにて外国人が仕事ができる仕組みの構築	
	団体名	特定非営利活動法人 Peace & Nature	

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域／分野	
<input checked="" type="checkbox"/>	(1)子ども及び若者の支援に係る活動
<input type="checkbox"/>	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
<input type="checkbox"/>	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
<input checked="" type="checkbox"/>	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input checked="" type="checkbox"/>	⑨ その他
<input checked="" type="checkbox"/>	(2)日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動
<input checked="" type="checkbox"/>	④働くことが困難な人への支援
<input type="checkbox"/>	⑤孤独・孤立や社会的差別の解消に向けた支援
<input type="checkbox"/>	⑥女性の経済的自立への支援
<input checked="" type="checkbox"/>	⑨ その他
<input checked="" type="checkbox"/>	(3)地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動
<input checked="" type="checkbox"/>	⑦地域の働く場づくりや地域活性化などの課題解決に向けた取組の支援
<input checked="" type="checkbox"/>	⑧安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援
<input type="checkbox"/>	⑨ その他
<input checked="" type="checkbox"/>	その他の解決すべき社会の課題
	「外国人と共に暮らし支え合う地域社会の形成」の課題に対して、外国人が参加しやすい、かつ仕事探しにつながるコミュニティを整備し、日本で仕事をしたいと考えている外国人の受入れを推進する。 (本取組みは、日本の食料自給率、有機農業による食の提供(みどりの食料システム戦略)、及び超高齢化少子化問題の解決にもつながる)

SDGsとの関連

ゴール
<u>4.質の高い教育をみんなに</u>
<u>8.働きがいも経済成長も</u>
<u>11.住み続けられるまちづくりを</u>
<u>13.気候変動に具体的な対策を</u>
<u>17.パートナーシップで目標を達成しよう</u>

I. 団体の社会的役割

(1)団体の目的	200/200字
2003年に設立。日本人と外国人が活動する国際NPO法人。代表バハラムは息子のアレルギーをきっかけに、神戸大学名誉教授の保田茂先生に出会い、農業を使わない食と環境の大切さを学ぶ。活動目的は未来のグリーンリーダーを育成すること。国内外の子供・学生に対してSDGsの実践型ワークショップを提供し、農山村の活性化と都市と農村の交流を促進し、平和で自然環境に恵まれた地球の創造に寄与することを目的としている。	
(2)団体の概要・活動・業務	200/200字
活動の3本柱は、1)食と農（農業を使わないお米・野菜・ハーブ作り）2)環境（森林保全・有効資源の活用・休耕地再生・空き家再生）3)人間力（自然体験・国際交流・地域活動）。現在39ヶ国のメンバー450名、法人メンバー39社が在籍、幼稚園～大学(国際学校含む)のSDGs校外活動やインターン授業、また企業の社員研修として多くの方が参加。今年から新たに大学・企業との3者でプロジェクトを立上げ活動を推進。	

II. 事業概要

実施時期	(開始)	2023/2/1	(終了)	2024/1/31	対象地域	神戸市北区
事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	事業対象者①：在日外国人や留学生。日本に残り仕事をしたい在日外国人や留学生に対して、山村エリアにて外国人同士が集いながらコミュニケーションが取れるコミュニティを充実させ、仕事ができるようになる。 事業対象者②：山村エリア（高齢者）。日本は超高齢化少子化という課題があるなか、在日外国人のみならず、日本で学びたい、社会貢献できる人材を育成することで、山村エリアの人手不足の解決につなげる。 事業対象者③：ピースアンドネイチャー。新事業を通じ、ソーシャルビジネスを確立し、自立する。				事業対象者人数	延べ約100～200名
事業概要	606/800字	私たちの団体は代表が外国人であり、39ヶ国のメンバーが在籍しているなか、日本に残りたくても仕事がなく帰国する外国人をみてきた。コロナ禍、文化・言葉の違いから居場所や仕事が見つからず不安を感じる在日外国人や留学生が少なくない。この事業の目的は、山村エリアにて外国人が仕事ができる仕組みを構築することです。目的達成の為、①外国人が地域貢献（農作業・竹林整備・DIYエコハウスなど環境保全活動）し、前回事業と同様、引き続き地域社会に関わることで誰一人取り残さない、②自分たちで育てる有機野菜やハーブ由来の商品開発が行える作業場をつくる、③日本人と外国人が社会の課題を解決しながら、新たな仕事を創出するモデル事業としてバイリンガルでSNS情報発信する、④山村エリアにおける新たなビジネスを創出し、地域課題の高齢化、休耕地再生、環境整備や農業に取組み、外国人と日本人が協働する場を充実させる、⑤地域のファームサーカスや藤本農園、マルシェ、オンラインにて、バイリンガルで販売する、⑥安心安全なオリジナルギフトを商品化し、お中元、お歳暮、お祝い事、クリスマスのギフトとして、法人メンバー(社員向け)などを対象に販売する、⑦付加価値として、商品売上の一部を環境保全に活用し、地球環境にサステナブルな商品を作る、 商品開発施設について、新たに委託契約を結び確保済み。 本取組みは多くの企業と連携を図る計画から「B型」として申請。				

### III. 事業の背景・課題

(1)新型コロナウイルス感染症及び原油価格・物価高騰により深刻化した社会課題	799/800字
<p>コロナ禍で在日外国人や留学生は、仕事も限られている状況が継続し、ウクライナ情勢による物価高騰で生活に不安を感じている外国人は少なくない（法人メンバー外国人団体、国際学校、外資系企業からの情報）。前回の事業で活動したモルジブやアフリカの学生など、日本に残り仕事を望む優秀な留学生数名が、就職できずに帰国した。</p> <p>当団体代表は在日33年の外国人でありその立場から、日本の文化や習慣を伝えることが出来る。彼らは一般にオープンでコミュニケーションを大切にしている。いざという時に属するコミュニティーがあれば、彼らにとって心強い。彼らが安心して生活できることは、日本人にとっても安心の材料となる。昨年度高齢化で人出不足の農業をサポートする事業は、地域にも外国人にも好評で継続してほしいという声を耳にする。前回の課題は、日本に残り仕事をしたいと望む優秀な留学生を雇う仕組みがなかったこと。法人メンバーと企業マッチングを試みたが、言葉の問題（日本語せず英語のみ）で繋げられなかった。今後日本で仕事をしたと望む優秀な外国人は、少子高齢化社会を迎える日本にとって大切な人材となるのではないかと。外国人や留学生が有機農業や環境について研修し、共に有機で育てる食材や商品をつくる事業を構築する。様々な国のテストと付加価値で商品化するための作業場を整え、外国のデザインやパッケージも加え、地元マーケットやオンラインにて販売する。過疎化地域に外国人の力を借りて雇用できる拠点の整備を行い新たな事業を創出し、日本の自給率アップにも繋げてゆく。施設はサステイナブルな再生可能エネルギーを導入、もったいない精神で再利用しエココンシャスな環境を整え、海外から視察が来るモデル事業とする。世界的にZ世代は環境に意識が高く将来的にインターンも増やし、日本の若者が様々な国籍と協働し、地域貢献やグローバルコミュニケーションを学べる場とする。</p>	

### IV. 事業設計

1)事業終了後に目標とする状態（短期アウトカム）	100字	実施・到達状況の目安とする指標	100字	把握方法	100字	目標値/目標状態	100字	目標達成時期	100字
①農業を使わずに育てた野菜やハーブ、竹などを原材料として有効活用した商品群、地域内に眠っている自然資源を活用した農産物を販売する仕組みをつくり持続可能な里山環境を目指す。		・当該里山地域に暮らす・働く・訪れる人の数		・人口統計 ・イベント時などの集客データ		・訪問人口100人		2024年1月	
②外国人などの地域外から人材を受け入れ、参加者に活動を通じ地球環境や地域課題の現状を知ってもらい、商品開発に関わり、課題解決の一端を担うリーダーとして成長してもらうことで、里山地域が持続できる体制が整った状態をめざす。		・活動を通して成長した参加者数		・活動記録/参加者の声/アンケート		・活動を通して成長した参加者数：10名		2024年1月	
③消費者啓発の一環として、安心安全な食づくりがなぜ環境に大切なのか、この商品を購入することがなぜ社会活動に繋がるのかに関して、案内（ウェブ・SNS）を見ていただくことで、消費者の気づき・理解に繋がる。		・気づき/理解が増した消費者数		・SNSでの発信状況、及び参加者の声/QRコードでのアンケート		・気づき/理解が増した消費者数：100名 ・フォロー数1,000人（国内外）		2024年1月	
④協働したパートナー企業が、SDGsに関連する活動(環境活動等)に実際に投資することで、各企業のCSRレポート/サステナブルレポート等として発表できる。		・コラボした企業への反響		コラボした企業に関する記録		反響を把握する企業数：5社		2024年1月	
⑤P&Nのオリジナルブランドを立ち上げ、オーガニックに興味のある新たなマーケットを開拓し、商品販売向けメンバーを増やすことで、暮らしと環境のつながりを重視する思いをもった市民と協働できる状態をめざす。		・商品販売向けメンバーの増加		商品購入または活動の興味のあるメンバーとライングループ設定		商品販売向けメンバー増加数：10~100名		2024年1月	

(2) アウトプット（今回の事業実施で達成される結果）	100字	実施・到達状況の目安とする指標	100字	把握方法	100字	目標値/目標状態	100字	目標達成時期	100字
①商品開発ラボと製作用業場を整え、商品化プロセス(製造、パッケージ、物流、営業)、販売プロセス(オンラインストア、直接販売、委託販売)の構築。		・新たに商品化された数 ・提供する農産物数		・新たに商品化された数の記録		・新たに商品化された数：3 ・提供する農産物数：5		2024年1月	
②職場環境を整えることで在日外国人や学生が当団体に就く		・雇用人数 ・地域内でサポートした労働力		・雇用実績 ・サポートした仕事の人数		・1名/年を目指す ・サポート仕事：10名		事業終了後に雇用予定	
③ピースアンドネイチャーのSDGs商品ブランディング化によるファンづくり		・SNSフォロワー及びウェブサイトビジター		・SNSでの発信状況		・SNS等で発信 年間100回		2024年1月	
④環境活動をともに進める企業パートナーとのコラボレーション		・コラボした企業の数 ・環境活動に還元できる仕組みの見える化		・コラボした企業の声/アンケート ・環境活動に還元できる仕組みの構築状況		・コラボした企業数：10 ・環境活動に還元できる仕組みの構築とSNS発信		2024年1月	

(3) 活動	200字	時期
・商品開発ラボと製作用業場を整える		2023年2月~12月
・商品化プロセス(製造、パッケージ、物流、営業)		2023年2月~12月
・販売プロセス(SNS広報/Webオンラインサイト、直接販売/イベント等、委託販売:ファームサーカス・藤本農園など)		2023年2月~12月
・地域のファームサーカスや藤本農園、マルシェ、オンラインにて、バイリンガルで販売		2023年2月~12月
・ピースアンドネイチャーのSDGs商品ブランディング化によるファンづくり		2023年2月~12月
・オリジナル商品の販売を軌道に乗せる		2023年2月~12月
・職場環境を整えることで在日外国人や学生が当団体に就く		2024年1月

## V.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表理事：[企画運営/営業] 現場農業指導、現場作業、及び企画運営をおこない、営業活動も実施</li> <li>・職員：[現場農業指導/作業場作り/経理] 現場作業、及び外国人参加者の現場における指導と運営、経理対応</li> <li>・職員：[広報/運営] 現場作業、及び運営のためスケジュール調整や広報活動</li> <li>・スタッフ1, 2：[運営サポート] 現場作業/商品づくりなどの立上げサポート</li> </ul>
(2)他団体との連携体制	<p>法人メンバーである外国人団体(CHIC、YMCA)、国際学校(神戸ドイツ学院インターナショナルスクール、カネディアンスクール、エール学院)、及び外資系企業への声かけ、オリジナルギフト販売促進に向けてのコラボレーションの依頼。</p> <p>法人メンバーである食品関連会社(㈱神戸酒心館、コープ自然派、㈱にしむら珈琲、白鶴酒造㈱など)やロータリークラブと連携して、オリジナルギフトに関して連携する。地域のファームサーカスや藤本農園などと連携して委託販売する(安心安全な食を販売する)。</p> <p>一般社団法人みくもやと連携して商品づくりなどの立上げをおこなう。</p>
(3)想定されるリスクと管理体制	<p>自然の中での活動が多いため、外傷のリスクが伴う。</p> <p>⇒ 傷害保険・労災保険への加入。</p> <p>⇒ 竹伐採など、森林の中での活動はヘルメットと保護メガネを必ず着用する。</p> <p>参加者が移動に公共交通機関を使うことになるため、感染のリスクが伴う。</p> <p>⇒ 集合場所で手洗いを徹底し、検温、アルコールを用いた消毒を実施する。(兵庫県神戸市の指針に沿ったピースアンドネイチャーのルールをもとに、活動を推進する)</p>

## VI.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無			
①新型コロナウイルス感染症に係る事業			
本事業について、新型コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け助成金等を分配している(予定も含む)	無	有の場合 その詳細	
本事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金(ふるさと納税を財源とする資金提供を含む)を受けていない。	受領無	※有の場合、選定の対象外となります(公募要領：助成方針参照)	
(2)事業に関連する調査研究、連携の実績			
<p>大学生をインターンシップで40日間受け入れ、SDGsワークショップの運営に取り組んでもらった。8～12月の期間を対象として、現在2名の中国人留学生を受入れ中。(コロナ感染前にはイギリス・インド・カナダ等からの学生インターンシップを受け入れ、その他昨年から今年にかけてフランスやアメリカの団体からも学生の受け入れ依頼あり)</p> <p>㈱神戸酒心館、神戸芸術工科大学と共に、今年からオゾリパプロジェクトを立上げ、学生は校外授業として当団体活動地を訪問し、山村エリアの課題抽出と対応策を見出すこと、又お酒に関するデザインを目的として活動中。</p> <p>神戸学院大学のインターンシップを今年から受け入れ、大沢町の現場で継続的にSDGs校外学習に取り組んでもらい単位を付与。</p> <p>沢町の農家さんと連携し活動している。農地は都会の人々にとって、地に足をつけて体験できる生きた学びの場であり、プログラムに組み込んでいる(SDGs#4：質の高い教育の実践)。農家の方々は、我々の活動を「教育」としてご理解を頂き、様々な形でご協力をいただいている。</p> <p>SDGs校外学習として、高校(東北学院、百合学院など)、中学(松蔭中学)、インターナショナルスクール(神戸ドイツ学院インターナショナル、カネディアンアカデミー)などを対象に実施している。</p> <p>コロナ禍、2022年可能な範囲で講演活動(ピースアンドネイチャーのSDGs取り組みと企業価値の向上etc.)を通して各団体とコミュニケーション(神戸観光局 MICE/神戸コンベンションセンター、東灘ロータリークラブ、豊岡高校、西宮市国際交流協会)</p> <p>食品関連会社と連携して安心安全なオリジナルギフトを商品化し、お中元、お歳暮、お祝い事などのギフトとして販売することを計画しているが、今までに神戸紅茶(株)と協働してスパイスティーづくりの実績あり。</p> <p>商品の販売に関して、ザクロとバーベリーのパウンドケーキを製造してデパート(伊勢丹、大丸)で販売した実績あり。</p>			